

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	伊万里市立山代東小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上については、学習した内容を元に表現する力については、まだ課題が見られるため、授業改善の工夫が必要である。 ・思いやりのある言動を実践していくために、具体的な言動を紹介する機会や場を設けるようにする。 ・運動を好む児童が多く、体育的行事や外遊びなど、積極的に活動することができた。 ・コミュニティ・スクールとして、PTA、地域の方との連携に努める。また、山代を愛し、山代を育む人材を育成する。山代の「ひと」「もの」「こと」とのかかわりを通じて、自己有用感を育み、将来に夢や希望を語るができる子どもを育てる。
2 学校教育目標	「笑顔で 元気な 東っ子」の育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 「進んで学習」・・・めあてをもって主体的に学習し、自分の考えを進んで発言する。 ② 「自分も友達も大切に」・・・他者や郷土のよさを知り大切にするとともに相手を思いやり、ともに生きようとする。 ③ 「心と体をきたえ 何事にもチャレンジ」・・・健やかな心を体もち、前向きに何事にも挑戦する。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者	
(1)共通評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・学力向上対策評価シートの共通実践を校内研究の取組と関わらせることで、マイプランの取組を推進し、成果指標の達成を目指す。 ・校内研究において「話し合う活動」の質的改善に取り組み、全担任が年間1回の授業研究を行った。	A	・マイプランの成果指標の達成について「できた」「どちらかといえばできた」と回答した教職員は89%であった。今後も話し合う目的を明確にしたうえで、「授業づくりのステップ1・2・3」のステップ2以上を意識した授業づくりに取り組みたい。 ・日頃から必然性をもたせた「話し合う活動」を仕組むよう意識し、78%の教職員が「できた」「どちらかといえばできた」と回答した。全担任が授業研究を行うことで「話し合う活動」について、質的改善ができていない。「話し合う活動」の研修等を行い、引き続き実践に取り組みたい。 ・1学期に行ったアンケートでは、90%の児童が「自分も友達も大切にできた」と回答した。 ・多様性の理解を深める動画教材を職員に紹介することが未だに実施できていない。紹介をして、学級の実態に応じた指導に活用できるように取り組む。	A	・「授業づくりのステップ1・2・3」のステップの平均が2.4だった。校内研究と関わらせることで山代メソッド(西部型授業)を意識した取組ができ、授業の質的改善が図られた。ステップ3の回答率が向上するよう来年度も研修等を行っていきたい。 ・校内研究において全担任が授業研究を行い、「話し合う活動」についての研修を深めた。少人数での「話し合う活動」において全職員がステップ2以上だったが、ステップ3と回答した教職員は43%だったので、来年度も「話し合う活動」の質的改善に取り組んでいきたい。 ・3学期末に行ったアンケートでは、98%の児童が「自分も友達も大切にできた」と回答した。しかし、日頃の生活を振り返ると友だちを大切にできていない言動もあるので指導を継続していきたい。 ・多様性の動画教材を学級で活用することができた。	学力向上対策コーディネーター	
	○「山代メソッド」における話し合いの過程に焦点を当て、思考力を引き出す授業の実践	○県学習状況調査やCRTIにおいて、前学年の正答率、ポイントを上回る。 ○教職員アンケートで「話し合う活動において話し合う必然性をもたせて取り組ませることができていますか」について肯定的な回答をした教職員の割合が70%以上。	・子どもたちの思いやりのある言動を紹介する機会を設け、可視化し、意識づけする。 ・道徳の授業や朝の読み聞かせなどで多様性についての学習を2回以上する。	A	・約80%の児童が困ったときに誰かに相談することができたと回答した。今後も生活部と連携をし、一年間を通して児童の困り感や悩みなどを早期発見し、教育相談週間の実施に取り組む。	A	・84%の児童が困ったときに誰かに相談することができたと回答し、中間評価よりも上昇することができた。今後もアンケートや教育相談週間を実施して、早期発見に努めたい。	学力向上対策コーディネーター 研究主任	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○年に2回、アンケートを実施し、「自分も友達も大切にできた」と答える児童の割合を80%以上にする。 ○多様性の理解を深める学習を年に2回以上実施する。	・「〇月のこころ」のアンケートで子どもたちの悩み事を早期発見する。	B	・全校児童が集まる場で「東っ子あいさつ」について話をしたりお手本を示したりした。挨拶への関心は高まっているように思うが、自分から進んで東っ子あいさつをしている児童は8割に留まった。 ・今後は児童によるあいさつ運動などの取組を推奨して、東っ子あいさつの普及に努めていく。	B	・「自分も友達も大切にできた」と回答した。しかし、日頃の生活を振り返ると友だちを大切にできていない言動もあるので指導を継続していきたい。 ・多様性の動画教材を学級で活用することができた。	道徳教育担当 人権・同和教育担当者	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○困ったときに、自分から誰かに相談することができたと回答した児童の割合が80%以上	・挨拶の仕方として、立ち止まり、目を見て、おしげをして挨拶をすることを推奨する。 ・上記の挨拶の仕方を「東っ子しぐさ」と名付けて、全校共通した指導を行い、挨拶への関心を高める。	B	・約67%の児童が1日に30分以上外で運動していると答えた。一輪車やドッジボールなどで遊ぶ児童が増えてきた。 ・10月に縦割り班で8の字跳びに挑戦した。委員会による呼びかけや記録の校内掲示を行い、学級でも意欲的に取り組めるようにしたい。	A	・約90%の児童が体を動かすことが楽しいと感じている。約80%の児童が1日に30分以上外遊びや運動をしている。 ・保護者も約80%以前よりも運動が好きになっていると感じている。 ・2学期にスポーツチャレンジへの取組を奨励した。全学年が挑戦をした。 ・外遊びが充実できるよう、貸出用具を増やすことも検討。	教育相談担当 養護教諭	
	○「伊万里っ子しぐさ」を活用した心の教育の推進	○自分から進んで挨拶をすることができる児童の割合が90%以上	○委員会を活用し、遊びの提案を行うことで外遊びを奨励する。 ○スポーツチャレンジに挑戦し、前より運動が好きな児童の割合が60%以上	・定時退勤日の設定と確実な実施 ・年に2回業務改善について考える研修を行い、時間だけでなく業務の質的な改善を教師自身で考え実践する。 ・年間行事の見直しを行う。	B	・夏休みに業務改善についての研修会を行い、具体的な取組をそれぞれが考えることができた。まだ十分とは言えないので、質的改善について継続して考える時間を学期に一回作る。 ・行事の見直しは表を使って「見える化」を図り、来年度の計画に反映させる。	A	・全体的に退勤時間が早くなってきている。職員の意識改革はできていると考える。年間を見通して仕事の軽重をつける必要があるため、継続して研修を行っていきたい。 ・表を使った行事の見直しを実施したものの、それを全体で検討する時間が取れなかったため、運営委員会等で検討しながら精進していきたい。	生徒指導担当 生活部担当
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で200分以上の児童生徒60%以上	・各学級や縦割りですぐれかの競技でエントリーし、2学期までに記録に挑戦させる。	B	・夏休みに業務改善についての研修会を行い、具体的な取組をそれぞれが考えることができた。まだ十分とは言えないので、質的改善について継続して考える時間を学期に一回作る。 ・行事の見直しは表を使って「見える化」を図り、来年度の計画に反映させる。	A	・約90%の児童が体を動かすことが楽しいと感じている。約80%の児童が1日に30分以上外遊びや運動をしている。 ・保護者も約80%以前よりも運動が好きになっていると感じている。 ・2学期にスポーツチャレンジへの取組を奨励した。全学年が挑戦をした。 ・外遊びが充実できるよう、貸出用具を増やすことも検討。	体育主任 特活部担当	
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○業務改善を年間3つ以上実行させる。	・定時退勤日の設定と確実な実施 ・年に2回業務改善について考える研修を行い、時間だけでなく業務の質的な改善を教師自身で考え実践する。 ・年間行事の見直しを行う。	B	・夏休みに業務改善についての研修会を行い、具体的な取組をそれぞれが考えることができた。まだ十分とは言えないので、質的改善について継続して考える時間を学期に一回作る。 ・行事の見直しは表を使って「見える化」を図り、来年度の計画に反映させる。	A	・全体的に退勤時間が早くなってきている。職員の意識改革はできていると考える。年間を見通して仕事の軽重をつける必要があるため、継続して研修を行っていきたい。 ・表を使った行事の見直しを実施したものの、それを全体で検討する時間が取れなかったため、運営委員会等で検討しながら精進していきたい。	管理職・教務主任 事務職員	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		
○特別支援教育の充実	○個に応じた指導体制の充実 ○特別支援教育の推進	○児童に関する情報交換会を週に1回実施する。 ○特別支援教育について理解を深めるため、職員の研修会を年2回以上実施する。	・保護者面談や情報交換会、校内支援委員会を通して保護者や職員間の連携を図り、共通理解をして支援を行う。	A	・児童に関する情報交換会は週に1回実施できた。職員間で共通理解ができ、支援に役立てることができた。 ・夏休みに2回研修を行った。児童理解やUD教育に関する内容で、合理的配慮や行動への対応の仕方などを具体的に知ることもできた。これからの指導に生かす。	A	・児童に関する情報交換会は継続して実施できた。共通理解して支援に役立てることができた。個別の事例についてもすぐに相談し対応することができた。 ・夏休みの研修で学んだことをいかして支援に取り組んだ。児童の困り感に寄り添い細やかな指導をすることができた。	特別支援教育担当	
○地域連携教育の推進	○コミュニティスクール・子ども伊万里学の推進	○地域サポーターの登録者数を30人以上に増やす。 ○各学年、年に1回以上、地域人材を活用した授業や行事を行う。	・地域や保護者に対してコミュニティスクールの概要について説明し、理解を深める。 ・学校運営協議会と連携し、地域サポーターの募集を行い、山代東小人材マップを作成する。	A	・地域サポーターの登録者はまだ増えていないが、地域の全家庭に募集の紙を配付したり、区長への協力を依頼したりすることができている。 ・学校運営協議会において、コミュニティスクールについての講演会を実施することができた。今後はHPや学校だよりなどで保護者への啓発を行う。	A	・現在学校に関わっていただいているお話しレゼントやフットパスの方々に声をかけて、40人以上の方がサポーターに登録していただいた。しかし、今年度は登録のみで、具体的な活動を全体で共有することができなかったため、来年度は、計画的に活動を仕組んでいく。	管理職・教務主任	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育								
5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の重点取組の内容について、各担当者が中心となって進めることができたが、児童・教職員・保護者に見えるような具体的な取組を増やしていきたい。 ・学力向上については、校内研究と合わせて児童の主体性を伸ばすような授業改善と基礎基本の徹底の工夫が必要である。 ・コミュニティ・スクールとして、地域サポーターを増やすことができたが、次年度は、各サポーターの活動で年間計画を立てて、年間行事の中に位置づける必要がある。また、活動したことを地域や保護者に発信していき、さらにコミュニティスクールとしての認識を深めていく。 ・保護者の要望もあり、将来の自分の姿を考えさせるようなキャリア教育にも力を入れていく。 							